

InterRisk Thailand Flood Report <2022 No.03>

タイの洪水情報

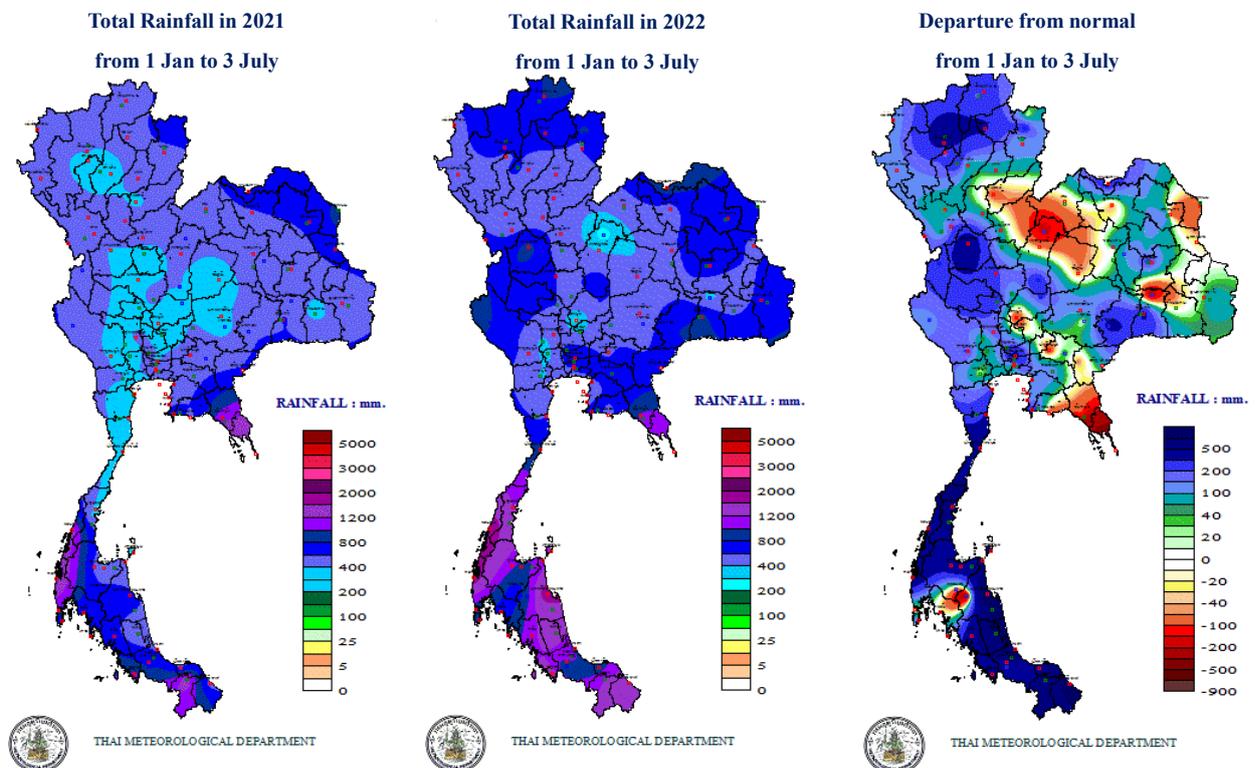
[概要]

- 6月初旬の降雨量は去年と比較すると特に南部地域において多い傾向となりました。
- 7月前半の降雨量は少なかったものの、後半は南西モンスーンの威力が強くなる傾向にあるため、多くの地域に雨が降り、一部の地域には大雨が予想されています。
- 7月のチャオプラヤ川流域の主要ダムの貯水量は6月初旬と比較すると若干少ない傾向になっていますが、昨年と比較するとやや増加しています。
- チャオプラヤダムの上流と下流の河川は6月上旬と近い状況で大きな変化はなく、洪水危険はありません。

降雨量

下図はそれぞれ、(左) 2021年1月1日～7月3日における累積降雨量、(中央) 2022年1月1日～7月3日における累積降雨量、(右) 2022年1月1日～7月3日における累積降雨量の平年(直近30年の平均雨量)との差を示しています。

2021年と2022年の7月上旬までの累積降雨量を比較すると2022年は南部地域において大幅に高くなっています。今後ラニーニャ現象の影響により南部の累積降雨量はさらに増加し800～2000mmになると予想されています。平年の累積降雨量と比較すると、今年の累積降雨量は北部地域においてやや増加傾向になっており、南部地域は大幅な増加傾向となっています。



天気予報

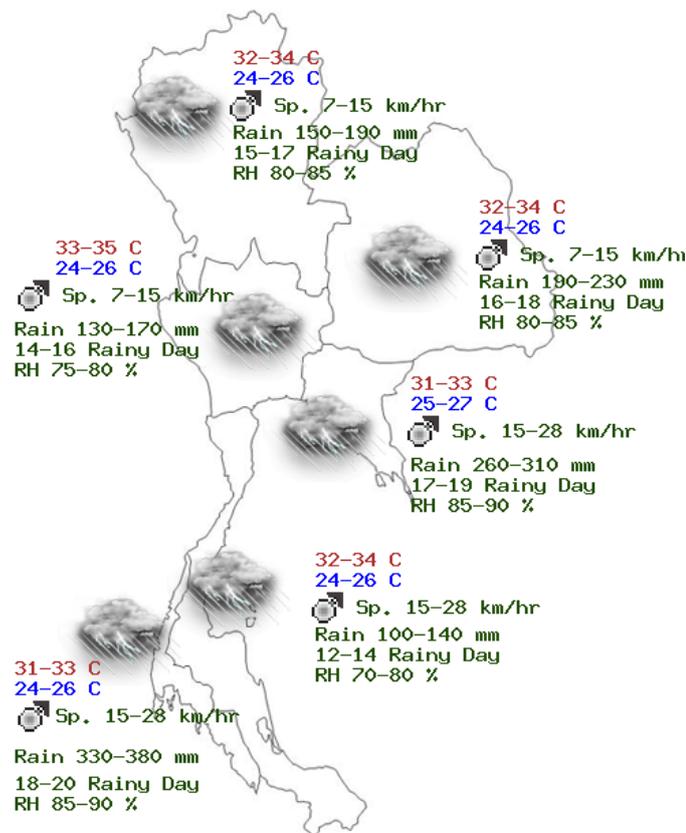
7月の各地域の降雨量と降水予測日数を下図に示します。タイ気象の月間天気予報によれば、7月前半の雨量は少なく、降雨の範囲はタイ全土の約20~30%にとどまりますが、7月の後半には雨量はやや増加する傾向にあります。多くの地域で降雨が発生し、一部の地域、特に東部地域や南西地域では大雨になると予測されています。これは7月前半にアンダマン海に沿って停滞している南西モンスーン^{※1}の威力が弱まり、南東モンスーン^{※2}の威力が大幅に強くなることが起因しています。また、7月後半にはモンスーントラフ^{※2}が一時的に北部地域に停滞する見込みです。

7月の降雨量予測では、ほぼ全ての地域にて平年並みと予想されていますが、北部地域や北東部地域においては平年より約10%少なくなる可能性があります。

一方、特に南西部地域や東部地域沿岸での降雨量が増加する傾向があり、注意が必要になります。これは北太平洋の西部地域から熱帯低気圧が発生し、フィリピンを通過して、南シナ海へ移動することが予想されているため、アンダマン海に停滞している南西モンスーン^{※1}の威力が強くなることに起因します。

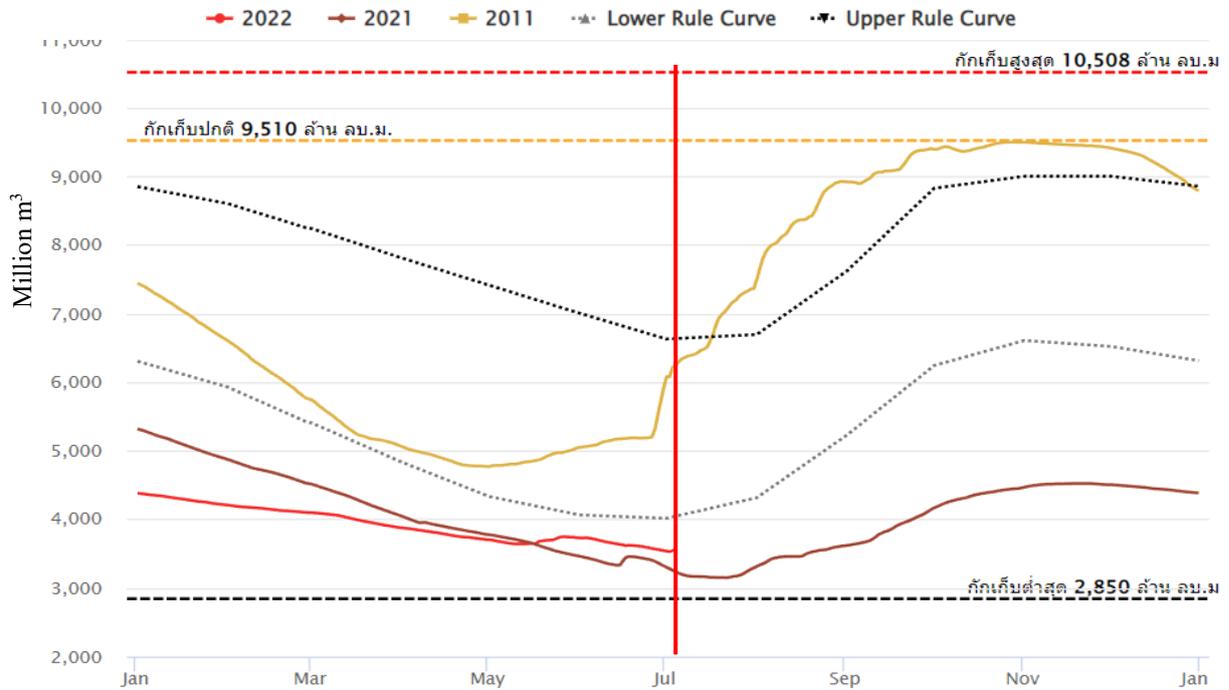
※1：モンスーン＝季節風（季節によって吹く方向が変化する風）。

※2：モンスーントラフは南北に移動する熱帯収束帯。熱帯収束帯では積乱雲が発達しやすく雨が降りやすい。

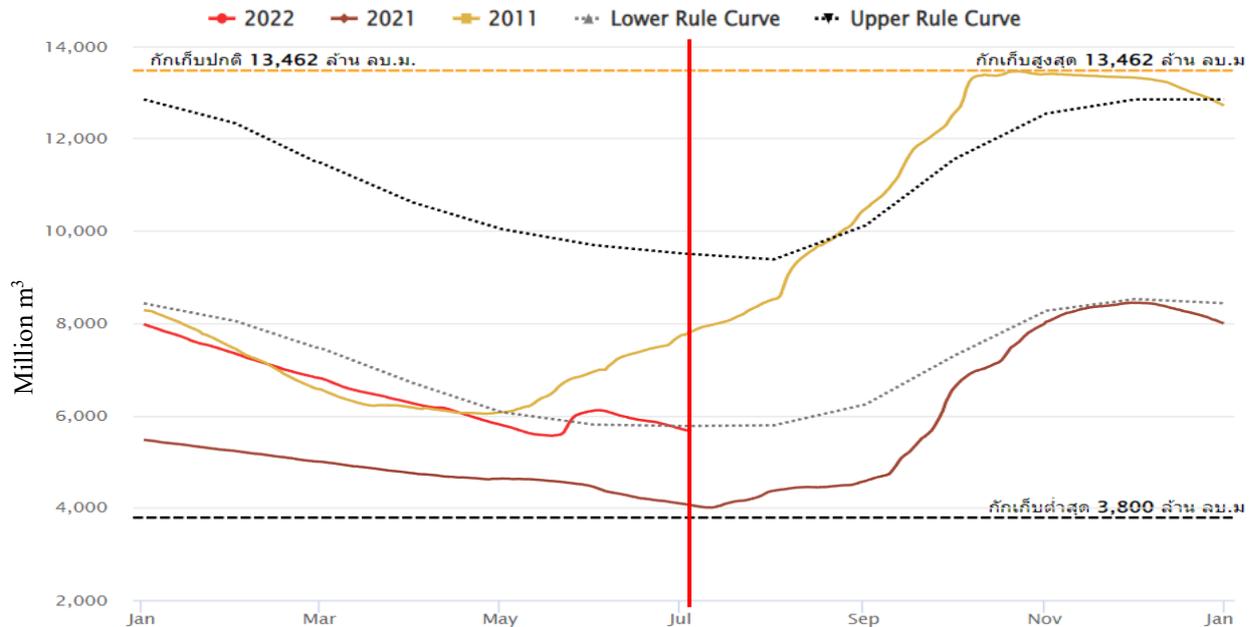


ダム貯水量 (Sirikit ダム、Bhumibol ダム)

貯水量 : Sirikit ダム (貯水率 37% : 2022 年 7 月 4 日)



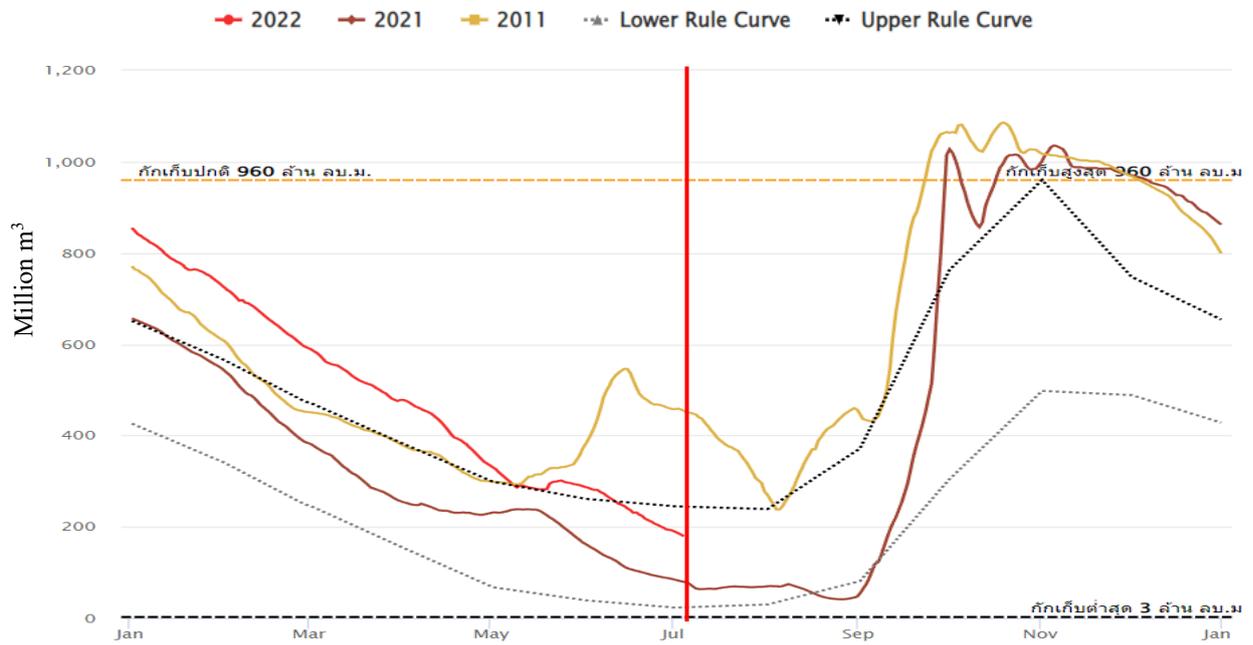
貯水量 : Bhumibol ダム (貯水率 42% : 2022 年 7 月 4 日)



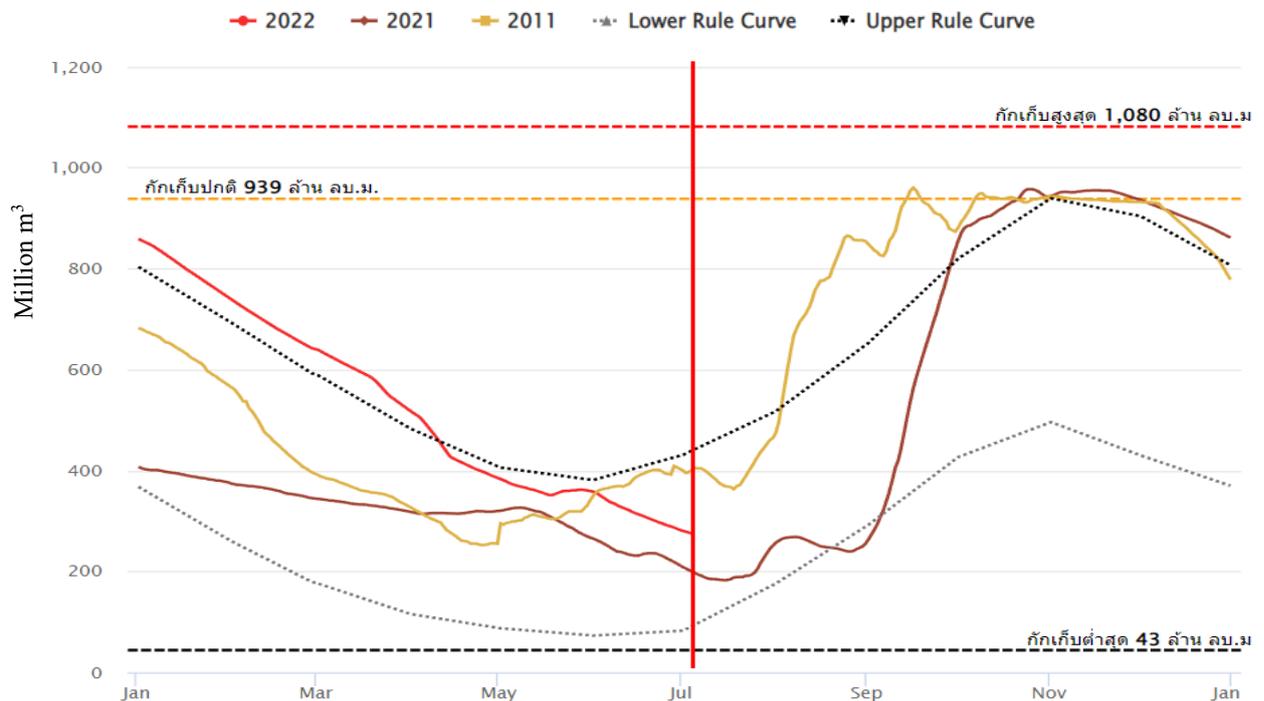
Sirikit ダムの貯水量は、昨年と比較して年初は少なかったものの、7 月 4 日時点ではやや多くなっています。Bhumibol ダムの貯水量は昨年より大幅に高いレベルで推移しています。雨季に入り、降雨量が多くなっていますが、両方のダムは減少傾向にあり、2011 年と異なる傾向となっています。

ダム貯水量 (Pasak ダム、Kwaenoi ダム)

貯水量 : Pasak ダム (貯水率 19% : 2022 年 7 月 4 日)



貯水量 : Kwaenoi ダム (貯水率 29% : 2022 年 7 月 4 日)



Kwaenoi ダムと Pasak ダムの 7 月 4 日時点の貯水レベルを年初と比較すると大きく減少していますが、前年比では貯水量はやや多い状況です。

チャオプラヤ水系の河川水位 (チャオプラヤダム上流)

チャオプラヤダム上流の Ping 川、Wang 川、Yom 川、Nan 川の水位は 6 月上旬から大きな変化はなく、堤防の高さより低いため、洪水危険はありません。

チャオプラヤ川の水位

2022 年 7 月 4 日



【備考】

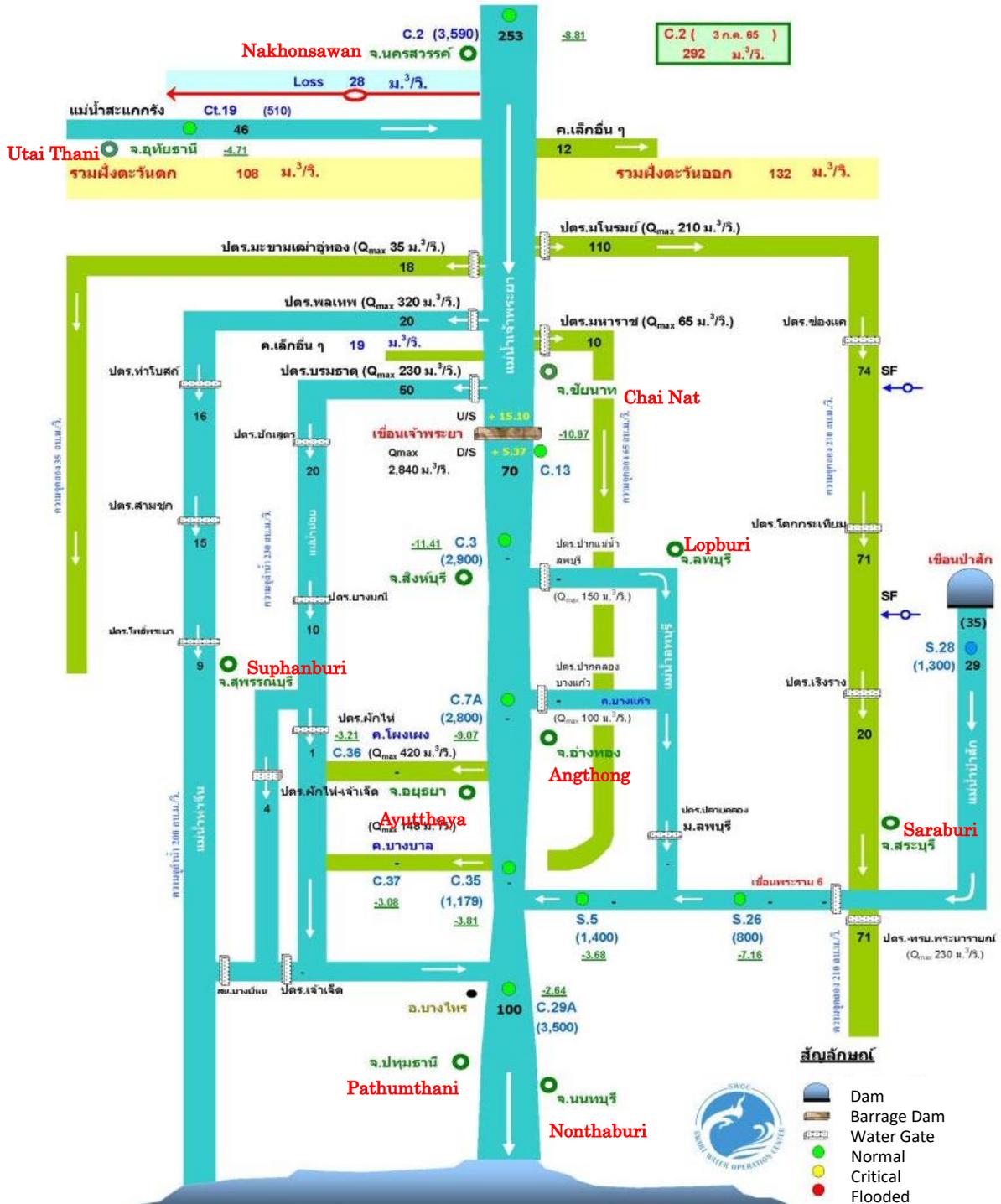
- ① 河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量 (m³/sec)
- ② 緑文字・+ (プラス) - (マイナス) 付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離 (0 になった場合、洪水が発生)
- ③ 水位レベルの U/S、D/S は m で表示されています。

チャオプラヤ水系の河川水位 (チャオプラヤダム下流)

チャオプラヤダム下流の河川水位は6月上旬から大きな変化はなく、水位は堤防より大幅に低いため、降水危険はありません。

チャオプラヤ川の水位

2022年7月4日



【備考】

- ①河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量 (m³/sec)
- ②カッコに示されている数値：河川流量 (m³/day)
- ③緑文字・+ (プラス) - (マイナス) 付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離 (0 になった場合、洪水が発生)

参照

<http://www.arcims.tmd.go.th/dailydata/yearRain.php>

https://www.tmd.go.th/monthly_forecast.php

<https://www.thaiwater.net/water/dam/large>

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_up.php?cal2=04072022

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_up.php?cal2=03062022

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_low.php?cal2=04072022

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_low.php?cal2=03062022

MS&AD インターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。タイ進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、お近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&AD インターリスク総研(株) 総合管理部 国際業務グループ

TEL.03-5296-8920

<https://www.irric.co.jp/>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.

175 Sathorn City Tower. South Sathorn Road.Thungmahamek. Sathorn. Bangkok 10120. Thailand

TEL: +66-(0)-2679-5276

FAX: +66-(0)-2679-5278

<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研株式会社 2022